

# 山陽小野田市ふるさとづくり協議会 令和7年度中学生市議会 報告書

令和7年8月5日（火）

午後2時30分～午後5時00分



主催：山陽小野田市ふるさとづくり協議会

## 議事日程

### 日程1 一般質問

#### 1番 小野田中学校 上原 一柊 議員、古賀 滯 議員

- ・市内運行バスをIC化したり、料金を一定化したりしてほしい
- ・部活動の地域移行について
- ・勉強できる施設をより利用しやすくしてほしい

#### 2番 高千帆中学校 岡部 未来 議員、坂本 穂佳 議員

- ・市外へ転出した方々が再び本市に戻ってこられるような取組について
- ・地域の過疎化・子育て支援について

#### 3番 厚狭中学校 山縣 こはる 議員、山根 蒼士 議員

- ・山陽小野田市小中学校における特別教室の空調設備設置状況について
- ・山陽小野田市小中学校における特別教室の洋便器率について

#### 4番 厚陽中学校 木本 雅 議員、長谷川 心夢 議員

- ・小規模特認校として発展していくために、誰もが通いやすい厚陽小中学校にしたい
- ・旧厚陽中学校の跡地を防災の拠点と位置づけ、さらに地域の発展のために多面的に活用したい

#### 5番 埴生中学校 河口 芽生 議員、笹尾 冬真 議員

- ・公共交通機関の充実について
- ・商業施設や娯楽施設の充実について
- ・山陽小野田市全体を通じた大規模なイベントの開催について

#### 6番 竜王中学校 中根 翔貴 議員、水野 陽奏 議員

- ・開けにくい窓とドアを直してほしい
- ・特別教室すべてに1台はエアコンを設置してほしい
- ・トイレを洋式にしてほしい

#### 議長 感想

石田 日南 議長、戸川 彪生 議長

### 日程2 講評

山陽小野田市長  
山陽小野田市議会議長  
山陽小野田市教育委員会教育長

### 日程3 主催者お礼

山陽小野田市ふるさとづくり協議会会長

## 日程1 一般質問・答弁要旨

### 1番 小野田中学校 上原 一柁 議員、古賀 滯 議員



#### 《質問事項》

- ・市内運行バスを IC 化したり、料金を一定化したりしてほしい
- ・部活動の地域移行について
- ・勉強できる施設をより利用しやすくしてほしい

#### 《市からの回答》

- ・市内運行バスを IC 化したり、料金を一定化したりしてほしい  
(高橋経済部長)

初めに、市内の運行バスの IC 化についてお答えいたします。市では、公共交通利用者の利便性向上のため、バス事業者に、交通系 IC カードやバスのタイムリーな位置が分かるバスロケーションシステムなどの導入に向けた支援を行ってまいりました。サンデン交通のバスでは、令和3年3月から交通系 IC カードが使用できるようになり、宇部市交通局のバスでも、令和4年3月から交通系 IC カードが使用できるようになりました。また、市内で1番多くの路線バスの運行をされておられます、船木鉄道のバスにおきましては、今年度末には、全てのバスで電子マネーが使えるようになる予定と伺っております。

次に、バス料金の一定化についてお答えいたします。市が運行しております「ねたろう号」などでは、利用者の利便性を考慮しまして、バス料金を定額の200円としておりますが、船木鉄道などの民間バス事業者が運行する路線バスにつきましては、それぞれの事業者が、バス路線の維持に必要なバス料金を設定しておられます。一つの例として、夏休み期間では、サンデン交通が小学生50円、中高生100円、というキャンペーンを行っておられますし、その他のバス事業者も様々なキャンペーンを行っておられますので、バス事業者のホームページなどを御覧頂きたいと思っております。それから、利用者が大変多い都市部では、バス料金を定額化しているバス事業者がありますが、利用者が大変少ない地方部では、収益の面からバス料金の定額化は難しいというふうに向っております。

#### ・部活動の地域移行について

(長友教育長)

文化スポーツ推進課では、中学生に向けた説明会について、7月から各中学校を訪問し、「休日の学校部活動に係る地域展開の時期について」の説明を行っています。また本年6月からは、市の広報紙やホームページで、学校部活動の受皿となる地域クラブ活動団体の募集を開始し、現在5団体、陸上、男子バレーボール、女子ソフトテニス、サッカー、剣道の登録がありました。教育委員会では、令和6年の12月に、令和7年度からの学校部活動についての文書を配布し、さらに、今年の7月には、令和8年度からの学校部活動についての文書を、学校を通じて各家庭に配布して、これからの学校部活動の活動の見通しをお示ししてきたところでございます。こうした取組は、学校部活動の活動日と、それに伴う登下校の時刻を統一することで、山陽小野田市内の中学生が同じ曜日の同じ時間帯に、一緒に地域クラブ活動に取り組めるようにし、部活動の地域展開が円滑に進むことを促すものであります。教育委員会としましては、部活動の地域展開に関する情報が児童生徒の皆さんにしっかりと伝わるよう、文化スポーツ推進課と連携しながら、引き続き情報発信に努めてまいります。

#### ・勉強できる施設をより利用しやすくしてほしい

(長友教育長)

内容が複数の施設にわたりますので、施設ごとに順に御回答いたします。

中央図書館と厚狭図書館につきましては、図書館の資料を利用して調べ物等ができる閲覧席があり、また、タブレットを持参してインターネットに接続して検索することができるよう、フリーWi-Fiの環境を整備しております。御質問の、中学生がみんなで教え合ったりできる場所、としましては、中央図書館には、3名から6名までのグループで学習することができるように、グループ学習室を設置しており、フリーWi-Fiの利用もできるようになっております。この学習室を利用希望される場合につきましては、カウンターで利用申請書を提出していただくことになっております。小学生以上で利用できますので、中学生の皆様にも大いに利用していただきたいと思っております。また、中央図書館では夏休みの宿題対策の一助となるように、「夏休み宿題！大作戦」を開催しております。これは、市民の皆様で組織する「図書館総発会議」が主催し、小中学生の夏休みの宿題をサポートしています。8月17日、中央図書館二階視聴覚ホールで開催しますので、御活用頂いたらと思っております。

(古川副市長)

今教育長のほうから教育委員会関係の施設について説明がございました。私のほうからは、市長部局の施設について説明をさせていただきたいと思います。

まず、先ほど質問にもございましたが、地域交流センターについてお答えいたします。市内の地域交流センターは小学校区に全てあるわけでございますが、夏休みと冬休みを中心に、児童生徒の皆さんが自主的に学習できる場所として、「スタディールーム」を令和4年から開催いたしております。今年の夏休みにつきましても、7月下旬から8月下旬まで開催いたしております。このスタディールームは、安心安全な環境で自主的な学習に取り組めるよう、地域交流センターの予約が入っていない会議室等を利用していただきまして、活用をしていただきたいというふうに思っているところでございます。

また、インターネットの環境につきましても、センター主催のオンライン講座等に使用することを目的といたしまして、各センターの一室に整備いたしておりますので、Chromebookなどを接続して利用して頂くことも可能かというふうに考えております。利用を希望される方は、地域交流センターの窓口のほうに申出ていただけたらというふうに思います。

周知ということでございますが、地域交流センターが発行いたしておりますセンターだよりとか、また本市のほうのホームページ、また市広報など、あらゆる媒体を使って周知をしていきたいというふうに考えております。

最後になりますが、先ほども質問ございましたが、Aスクエア内にあります「山陽小野田市民活動センター」について御説明をさせていただきたいと思います。このAスクエアは、去年の4月にセメント町に設立された施設でございます。この中に、市民活動センターという市の施設がございまして、その中に交流ホールという施設がございまして、市民活動センターは、町をよりよくするためのボランティア団体等の活動に取り組む皆さんの支援をする施設でございます。先ほど説明いたしましたように、施設内に勉強やミーティング、市民活動の作業スペースとして、予約なしでも利用できる交流ホールというものがございまして、Wi-Fiも完備してございまして、予約が必要ですが、パソコンの貸出しも行っております。冷暖房の完備、飲食可、また年末年始以外は、土日祝日を問わず、午前9時から午後9時まで御利用できますので、皆様方御利用していただけたらというふうに思います。

またこの周知方法でございますが、市民活動センターを知っていただくために、インスタグラムの情報発信にも力を入れてございまして、現在800人以上の方が、フォロワーとしてフォローをしていただいております。このように本市では、先ほど教育長も説明いたしましたが、図書館、また地域交流センター、市民活動センター等々、勉強できる施設がございまして。議員の皆様方も、お持ち帰りになりまして、同級生の皆様方に周知をしていただきたいと思っておりますし、市といたしましても、広報等いろんな媒体を使って、皆様方に周知を図っていきたいというふうに考えております。

#### 《再質問》（上原議員）

例えば、中学生向けの説明動画や情報サイトなどがあると、より深く知ることができるのではないかと考えていますが、いかがでしょうか。

#### 《市の回答》（長友教育長）

文化スポーツ推進課ではこれまで、先ほど申し上げましたとおり、学校等に出向いて

説明会を行っております。そのときにお聞きした話によると、あまりホームページ、市の広報というのを閲覧されていないということを聞いております。まずは、この市のホームページ、広報等を、広報は遡って見ることができますので、まずはしっかりそれを見ていただきたいと思います。その上で議員さんがおっしゃるとおり説明動画情報サイトが必要ということであれば、検討してまいりたいと思います。



《質問事項》

- ・市外へ転出した方々が再び本市に戻ってこられるような取組について
- ・地域の過疎化・子育て支援について

《市からの回答》

- ・市外へ転出した方々が再び本市に戻ってこられるような取組について  
(藤田市長)

大きく三つ、雇用の面、住環境、そして教育とに分けてお答えをさせていただきたいと思います。

まず雇用でございますけども、皆様方が希望する仕事、就職先があるという大変大きなテーマでございます。本市は大変すばらしい企業さんがたくさんございます。ですからしっかり情報を得ていただくことで、本市でまたすばらしい仕事をしていただくという環境は、他市に比べたら恵まれているほうではないかなと思う事はございます。けれどもプラスして、新たな企業の皆様方に活躍して頂きたいという思いもありまして、企業の誘致ということにも積極的に取り組んでおります。

本市には、小野田・楠企業団地という大変大きな企業団地があつて、このたびは、企業の進出が決まりまして、団地の完売を達成することができましたので、また新たなすばらしい企業さんに山陽小野田市に立地をしていただくことで、雇用の幅を今広げているところでございます。既存の企業さんはすばらしいんですけども、製造業が中心であつたりいたしますので、研究部門であつたり、もしかしたらIT関連とか、もうちょっと幅広い就職先があるとより市内に定着していただく、そういうきっかけになる

ということも大きな課題として捉えております。

二つ目の住環境でございますけれども、既に皆様方は中学校の生活まで、山陽小野田市で過ごしていただいて、大変住みやすいということはある程度感じていただいているのかなとも思います。そうは言っても、やっぱり日頃慣れ親しんでいるとそのよさがなかなか気づかない、ということもあるかもしれません。一度市外に出られた方が、特に都会の生活をされる中で、山陽小野田市は住みやすかったねと思うことも、多々見受けられます。したがって、外に出られた方にも山陽小野田市のよさを再認識していただくとか、新たに東京大阪から都会部から、山陽小野田市が住みよい場所だから、仕事もあるし、移住してみようと思ってもらえるようにしっかりPRをしていくことも必要ということで、移住フェア等も都会部で今やっております、そういうPR活動にも力を注いでおります。

そして三つ目の教育環境、これは特にお子さんお持ちの親御様にとりましては大変大きなポイントであります。本市にはすばらしい学校教育を担っていただいている先生方を中心に、皆様も感じていただいていると思いますけれども、良い環境をつくってらっているというふうにも思っております。さらに教育環境を進める中に、本市の強みの一つが、山口東京理科大学という大学があります。今工学部と薬学部で構成されておりますけれども、皆様方の将来にとっても大変いい大学、選択肢の一つに十分なると思っておりますし、小中高大の連携も進めていただいておりますので、皆様方の中学校の勉強の中でも、大学生との接点等も十分生かされて、よりよい教育環境を整えていけるのではないかなというふうにも思っております。あとハード面におきましてはそれぞれ、小中学校ともに新しい校舎も当然ありますけれども、古い校舎の中では、いろいろ皆様方が不便に感じているところもあるかもしれません。これについてはより1日も早く改善することはもちろんですけれども、どうしても財政面の課題がございますので、それをしっかりと議論をしながら、速やかに、なるべく早めに順次対応していきたいということで今取組を進めております。

以上、三つの視点で申し上げましたけど、それだけではなくこの後の子育て支援も含めて、多くの皆様方に山陽小野田市に、仮に一度離れてもやっぱりふるさと山陽小野田市で過ごしたいと思っていただけるまちづくり、これからも取り組んでまいりたいと考えております。

#### ・地域の過疎化・子育て支援について

(尾山福祉部長)

御質問頂きました子育て支援の充実につきましては、今後の人口減や税収の確保が不透明な中、限られた財源を活用しながら、さらなる充実を図っていくことは、本市にとっての重要課題の一つであると認識しております。現在本市では、行政や地域、市民がともに支え合いながら子育てをしやすいまちづくりの実現を目指し、「第3期山陽小野田市子ども・子育て支援事業計画」に沿って、子育て支援を進めております。この計画は、市民の皆様のアンケートや、会議などを通じて、多くの子育て世代の方の意見も反映させて策定したものです。主な支援策としましては、子育て家庭への経済的負担の軽減に向けた「妊婦のための支援給付金事業」、「入学祝金支給事業」などの事業や、配慮が必要な子供さんやその家庭への支援、また、保育所や児童クラブなどの必要量の計画的な確保など、様々な施策、支援を行っております。

議員御提案の一つ、保育所や児童クラブの増設につきましても、この計画の中で、人口推移などを勘案し、必要量の確保に努めておりますので、今後も計画的に子育て世代

世帯が安心して子育てできる環境づくりに努めてまいりたいと考えております。

また、そのほかの支援策として、お母さんが妊娠されてから、子供が大きくなるまで健やかに成長していけるよう、母子保健サービスや相談支援にも力を入れており、この令和7年度には、子育て総合支援センター、スマイルキッズと呼んでおりますが、この中に、妊娠、出産、子育てについての総合相談窓口機能を持つ子供家庭センターを新たに設置し、妊娠の時期から生まれて子供が成長するまで切れ目なく支援できる環境を整え、様々な相談に対応しているところでございます。

なお、議員御提案のもう一つ、引っ越し費用の補助など、移住に対する子育て支援策については、現在実施はしておりませんが、移住された方のサポートといたしまして、これは子育て世帯には限りませんが、移住相談員が、手続から移住後のサポートまで相談を受ける体制をつくっております。また、移住された子育て世帯の方には、転入されたときに必要な情報をまとめたものをお渡しするなどして、転入された子育て世帯のサポートを行っているところでございます。ただ、今様々な提案を頂きましたので、その辺りも本市で必要なことも参考にさせて、また考えていきたいと思っておりますが、将来、議員の皆さんが子育て世帯になったときに、この山陽小野田市がより安心して子育てしやすいまちになるよう、引き続き子育て施策に取り組んでまいりたいと考えております。



《質問事項》

- ・山陽小野田市小中学校における特別教室の空調設備設置状況について
- ・山陽小野田市小中学校における特別教室の洋便器率について

《市からの回答》

- ・山陽小野田市小中学校における特別教室の空調設備設置状況について  
(藤山教育部長)

本市におきましては、普通教室のほか、音楽室及び図書室を中心に空調設備を設置しており、現状、多くの特別教室が未設置となっておりますが、空調設備の設置につきましては、児童生徒の健康面だけでなく、学習環境の向上の観点からも効果があるものと認識しております。小中学校における特別教室の空調設備の設置状況につきましては、令和7年4月1日現在、小学校は特別教室123室に対して75室が設置済みで、設置率は61.0%となっております。中学校は、特別教室108室に対して34室が設置済みであり、設置率は31.5%となっております。次に見通しですが、各特別教室への空調設備の設置につきましては、多額の費用や相当の期間を要します。学校施設の整備に関しましては、校舎改築など多くの課題があり、その解決に向けて、今後、国の補助金など有利な財源の活用のほか、効率的に実施できる手法を研究し、事業化を目指し取り組んでまいります。

・山陽小野田市小中学校における特別教室の洋便器率について  
(藤山教育部長)

市内小中学校の洋式便器の設置状況につきましては、令和7年3月31日現在、日常的に児童生徒が使用するトイレにおける和式便器及び洋式便器の総数768器に対して、洋式便器数は283器で、洋式化率は36.8%となっております。御指摘のとおり、全国や県の平均との比較においても低い水準となっております。この理由につきましては、他に取り組まなければならない、例えば体育館の外周の改修工事とか、そういったものを先に優先した結果、洋式化率については、他市とか全国に比べて低いというふうに教育委員会としては捉えております。次に、設置の見通しでございますけれども、市長の施政方針、施政方針というのは、市政運営に当たりまして、市長が重要施策や予算について、市議会で説明するものでありますけれども、その施政方針として、小中学校のトイレの洋式化について、今後おおむね5年を目標として、100%を充足することができるよう、取組を加速させることを表明したところです。本事業は、設計や工事に相当の期間を要するものでありますけれども、児童生徒の皆さんが快適な環境の中、学校生活を過ごすことができるよう、早期実現に向け取り組んでまいります。



《質問事項》

- ・小規模特認校として発展していくために、誰もが通いやすい厚陽小中学校にしたい
- ・旧厚陽中学校の跡地を防災の拠点と位置づけ、さらに地域の発展のために多面的に活用したい

《市からの回答》

- ・小規模特認校として発展していくために、誰もが通いやすい厚陽小中学校にしたい  
(高橋経済部長)

お示しのサンデン交通などの路線バスのダイヤの見直しについては、利用者からのニーズを踏まえまして、適宜、バス事業者に要望しております。また、ねたろう号などの市が運行主体となっておりますコミュニティーバスについても同様に検討しております。今回御提案頂きました市内のいろいろな場所から厚陽小中学校に通うことができる、ちょうどいい時間のバスの運行についてですが、ダイヤの一部を変更すれば、全体のダイヤも変更しなければならず、また、現在御利用されている一般市民の方々への影響も生じるため、慎重な検討が必要となります。今現在、他の小中学校区から通学されておられます児童と生徒が2名、いらっしゃるとのことですが、将来的にもっと多くのバス通学を希望される児童生徒が通学される状況になりましたら、ダイヤ改正につきましては、まずは市の内部で検討いたしまして、あとバス事業者とも協議を行ってまいりたい

というふうに考えております。

(長友教育長)

特任校の発展について考えを述べさせていただきたいと思っております。令和7年4月に厚陽小中一貫校で導入いたしました、小規模特認校制度というものは、一定条件のもと、市内全ての地域からの就学を認めているものでございます。少人数ならではのきめ細かい指導や地域と連携した特色ある教育活動が行われているということを市内全域に広く周知しております。また先ほど議員の質問の中にもありましたように、学校のホームページで動画をつくったり、いろんな写真を掲載したりする、教育活動のよさを周知させていただいているというようなことも承知しております。特に、今年度6月に行われました、地域の方々が児童生徒とともに授業に加わり、大人と子どもが共に学ぶ『学ぼ〜よ』という事業におきましては、市内小中学校に勤務する全てのALT、英語指導助手が集って一緒に活動したり、山口東京理科大学の学生が参加して英語の学習をしました。こうした英語の学習を魅力として発信しているということも、教育委員会としても、支援をしておりますし招致もしておりますところでございます。こうした中、教育活動が児童生徒の増加や小規模特認校としての発展につながるように、教育委員会としてもさらに山陽小野田市の広報やウェブページ、それから教育委員会のインスタグラムにも載せております、様々な媒体を利用して、さらなる情報発信に努めてまいりたいというふうに思っております。

・旧厚陽中学校の跡地を防災の拠点と位置づけ、さらに地域の発展のために多面的に活用したい

(辻村総務部長)

防災拠点として、旧厚陽中学校体育館の空調、冷暖房設備の導入についてお答えさせていただきます。厚陽中学校の生徒の皆さんが、地域の皆さんと一緒に防災訓練に実際に参加して、日頃から防災について考えていただいていることには大変、心強く思っているところでございます。災害はいつ起きて、どのくらいの被害が生じるか、事前には分かりません。そのために、想像力を働かせて、様々な事前の備えをしていただくことが必要と考えています。御質問のように、厚陽地区の旧厚陽中学校体育館も避難場所や避難所の一つとして指定していますが、災害が起きたときや起こりそうなときには、指定された避難場所に避難しなければいけないということではなく、そのときの状況に応じて、居場所から一番近くて、安全な場所に速やかに避難することが大切です。もちろん指定している避難場所の環境をよくしていくことは重要ですが、災害が起きたときに、その避難場所はどのような被害を受けているかによって使える設備が変わってきます。停電しているかもしれませんし、地震の被害が起きれば建物の中に入ることさえできないかもしれません。また、道路が被害を受けていれば、その避難場所にたどり着けないかもしれません。その時々状況を見ながら、使える場所で使えるものを優先しながら、足りないものは、持ってくるという考えで避難所を開くということを考えています。御質問頂いた体育館の冷暖房についても、備え付けておくというのではなく、必要に応じて、発電機等セットで、移動式の冷暖房設備を避難所に持って行って動かすということを防災担当としては考えております。

(和西企画部長)

御答弁の前に、私企画部長でございますが、若干答弁に関係しますので企画部の仕事

を御紹介させていただきます。企画部の仕事には、市の計画を立てるという大きな仕事があります。長期的な仕事、長期的な計画、それから短期的な計画それぞれございます。ただし、その計画を実施するにはお金が必要です。そこで企画部では、お金の使い方、市の予算ですが、それも考える仕事をしております。予算を立てるときは、市に入ってくるお金を見ながら、市全体のバランスを考えて、お金の使い方、予算を組立てていきます。そのほかの企画部の仕事としては、御質問にあるように使われなくなった公共施設の跡地の活用といった、市役所全体で考えなければいけない課題も担当しております。そのような企画部の代表として御答弁させていただきます。

敷地を芝生で覆ってキャンプ場にする御提案や、プールと体育館を整備して社会体育の利用を進めるアイデアを頂きました。厚陽地区のことを真剣に考えていただいていることには感謝申し上げます。そこで中学生の皆様と考えていただきたいのが、市は限られた予算の中で事業を行っているということです。市は高齢者のこと、防災のこと、ごみのこと、そして教育のこと、市民の皆様の生活全般を考えて事業を進めております。教育のことに关しましても、新築あるいはリフォームされた厚陽小中学校に比べ、古いままになっているほかの学校の校舎のことも考える必要があります。また、学校の校舎だけでなく、市内には古くなっている公共施設がたくさんあります。いろいろと修理していかなければならなくなり、多くの費用がかかっております。今日の中学生の皆様の御提案のように、市民の皆様の御要望全てにお答えすることができればよいのですが、もちろんそれはできず、全体のバランスを見ながら予算を配分していることについて、今日のこの場に議会において御理解を深めていただきたいと思います。

それから3点目お祭りのことです。私実は以前、今の交流センターの前の公民館の担当をしていました。厚陽地区が地域のつながりがとても強い地域であることをよく知っております。お祭りに呼んで頂くことも多々ありましたので、地域の方々が自分たちでアイデアを出し、地域のために活動される様子を近くで拝見しておりました。厚陽地区はすばらしい地域だなといつも感心しておりました。中学生の皆様も、地域に暮らす1人としてアイデアを発信し、地域の皆様とともに厚陽を盛り上げていただきたいと思いますというふうに思います。



《質問事項》

- ・公共交通機関の充実について
- ・商業施設や娯楽施設の充実について
- ・山陽小野田市全体を通じた大規模なイベントの開催について

《市からの回答》

- ・公共交通機関の充実について  
(高橋経済部長)

埴生地域の鉄道につきましては、山陽本線の埴生駅があり、下関九州方面と新山口防府方面にそれぞれ1日当たり29便の列車が運行しております。またバスにつきましては、サンデンバスが下関駅方面、おのだサンパーク方面にそれぞれ1日あたり13便運行し、市が運行主体のいとね号が1日当たり、厚狭方面に6便、船木方面に5便運行しておりますので、鉄道やバスの運行ダイヤをまずは御確認頂きまして、できるだけ御利用頂ければというふうに思います。公共交通の充実に向けましては、鉄道については毎年、市が運行ダイヤや設備等に関するニーズを取りまとめまして、山口県を通じましてJRに列車の増便などの要望を行っております。またバスについても、市民からの要望などを踏まえまして、バス事業者とバスの増便などの協議を行っておりますが、利用者数が少ないということと、運転手不足という課題がありまして、大都市のような大幅な増便を実現していくことは困難な状況にあります。鉄道やバス事業者への要望は今後も引き続き行ってまいります。地方部の交通課題に対応できる『ライドシェア』という一般ドライバーが自家用車を使いまして、有料で乗客を送迎するという新たな交通ツー

ルの制度がありますので、今現在その仕組みが導入に向けて検討中であります。

・商業施設や娯楽施設の充実について

(高橋経済部長)

商業施設や娯楽施設の出店につきましては、民間事業者が集客がどれだけ見込めるのか、またその施設をつくるための建設コストはどのぐらい必要か、などを検討されまして、投資効果に対する収益を算出するなどして、出店されるかどうかを決定されるというふうに聞いております。この出店するという決定をしていただくためには山陽小野田市が今以上に、魅力あるまちになる必要があります。市では、第2次山陽小野田市総合計画に基づいて、まずは市の魅力をPRすることで、本市を知ってもらいまして、多くの方が住みたいと思ってもらえる、魅力あるまちになるために様々な施策を実施しているところです。

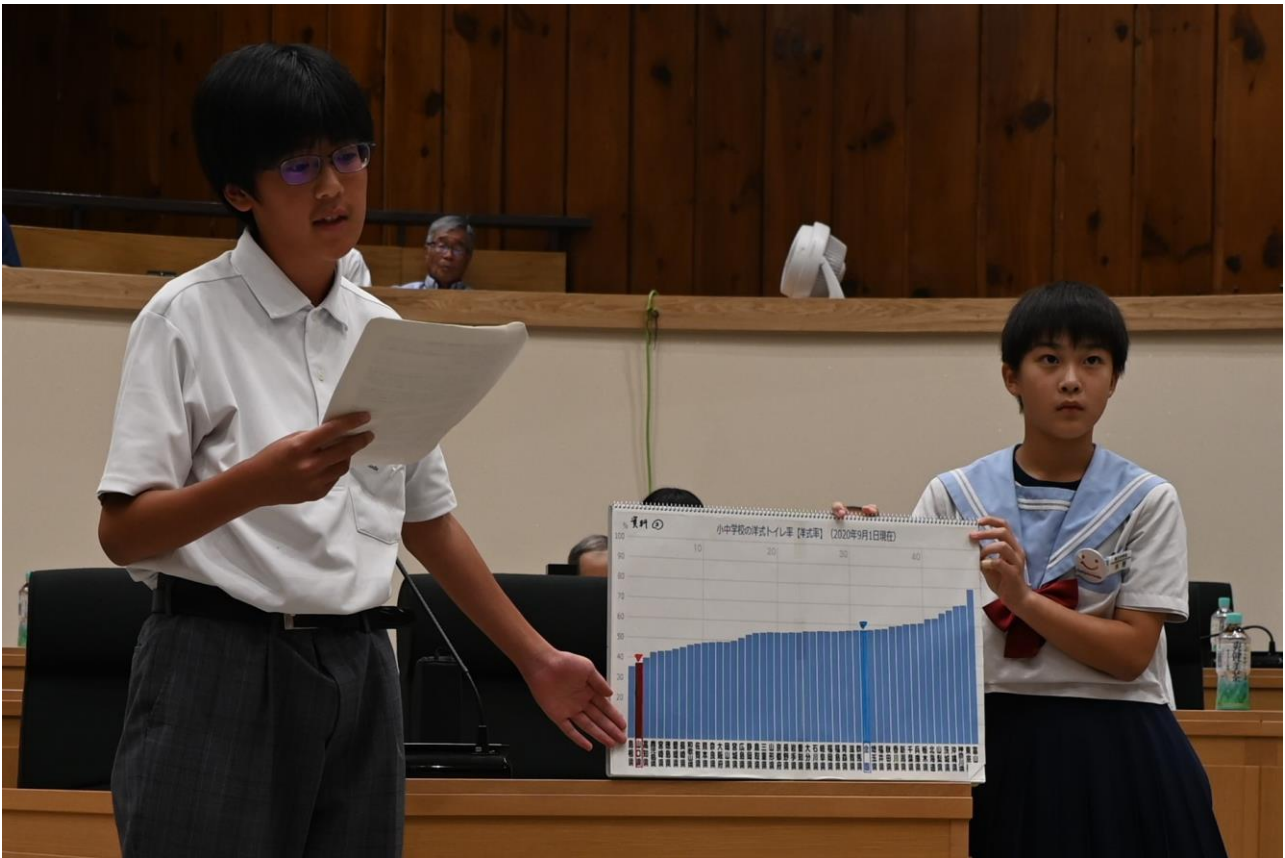
・山陽小野田市全体を通じた大規模なイベントの開催について

(古川副市長)

御質問頂きましたように、山陽小野田市を活性化するためには、市外から多くの人に訪れてもらう、これは交流人口を増やすということですが、これはまちづくりにおきまして大変大きな課題重要であるというふうにとらえておるところでございます。大規模なイベントを実施開催することで、市外から多くの方々が訪れ、イベントだけではなく、飲食店やホテルなどの宿泊施設を利用されるなど波及効果を生み、また、大きな経済効果が生まれてくるものというふうに考えております。また、多くの方が行き交うことによりまして、地域全体ににぎわいが生まれ、本市が活性化することも期待されるところでございます。

議員御提案がございました市全域でのウォーキング大会ということでございますが、今本市では、平成30年から毎年11月に山陽小野田観光協会が主催で『スマイルコーストウォーク』というのを開催しております。山陽小野田市は、皆さん御案内のとおり、美しい海岸線、また、夕日が美しいということで、夕日100選にも、焼野海岸は指定されておるところでございますが、このスマイルコーストウォークは、埴生地区にあるドライブインみちしおから、ゴールの本山地区のきららビーチ焼野まで30キロ歩くウォーキング大会でございます。校区で言いますと、埴生、津布田、厚陽、高泊、小野田、赤崎、本山の小学校の校区をずっと、30キロ歩くウォーキング大会ということになっておりまして、毎年参加者も増えていきますし、また、市外県外からも多くの方が、参加されておるところでございます。またこのほかにも、本市におきましては、いろいろな団体、また市もですが中心になっっているようなイベントを開催いたしております。大きなことを言いますと、毎年10月には、市のイメージカラーであるオレンジと親和性の高い、ハロウィンモチーフにいたしました、本市の魅力をPRする『スマイル・ハロウィンパーティー』も開催いたしておりますし、また大規模なイベントといたしましては5月に『復活！住吉まつり』、また、8月の初めには『おのだ七夕まつり』が開催されました。また10月には埴生のほうで『お祝い夢花火』、さらには12月、昨年開催されました『クリスマス花火』等々も開催して、にぎわいを醸し出しておるところでございます。またもう皆さん御存じと思いますが今年の5月には、高泊地区におきまして、最も長いお好み焼きでギネス世界記録に挑戦してギネスをとった団体もでございます。このように、いろいろな団体がいろいろなイベントをして、山陽小野田市から情報を発信していただいております。

また今年も、山陽小野田市市制 20 周年ということで、6 月の 28 日 29 日に『ドリームサッカー～日本代表OBがやってくる！ in 山陽小野田』というのを市政施行に合わせて実施いたしました。井原選手とか城選手、坪井選手がきて、いろんなイベントに参加していただきまして、3500 人の御来場、これも市外県外からたくさん来られたところでございます。このように、市といたしましては、市主催のイベントだけではなく、いろんな団体がされるイベントにつきまして、しっかりと周知、アピールをして、山陽小野田市から情報を発信していき、また本市に来ていただき、また来たい、遊びに行きたい、そして、山陽小野田市はいいところだなあと感じていただけるような山陽小野田市を目指してまいりたいと考えておるところでございます。



《質問事項》

- ・開けにくい窓とドアを直してほしい
- ・特別教室すべてに1台はエアコンを設置してほしい
- ・トイレを洋式にしてほしい

《市からの回答》

- ・開けにくい窓とドアを直してほしい  
(藤山教育部長)

施設または設備に不良や不具合があり、学校が教育委員会に対して修繕を要望する場合、制度や規模が比較的大きなものは、毎年度当初にまとめて報告を頂き、軽微なものは月例の報告として上げていただくほか、緊急性を有するものにつきましては、随時の報告を頂くよう、各小中学校にお願いをしております。生徒の皆さんも学校生活を送る中で気づきがあれば、例えば不自由なこととか危険なことがあれば、すぐに学校のほうに伝えていただき、学校は集約して教育委員会に報告していただければと思います。今議員の質問の中で、すぐにまた元に戻ってしまうということで迷惑をかけておりますけれども、今後も皆さんが安全安心に、そして快適な学校生活を送ることができるよう、引き続き施設のほか、適切な管理に努めてまいります。なおこのたび御質問頂きました空けにくい窓とドアの修繕につきましては、学校と教育委員会の担当課で該当箇所を確認しましたところ、フレームのゆがみや部品の不具合が原因であることが分かりましたので、現在対応を行っているところでございます。

・特別教室すべてに 1 台はエアコンを設置してほしい

(藤山教育部長)

最近 40 度を超える暑さ、今日も報道で 41 度という最高の温度になったということで、かなり暑い日が続いています。教育委員会としましては、皆さん方の学校での生活をとても心配しておりまして、学校の校長先生に、くれぐれも気をつけていただくようお願いしているところです。皆様方の体調の管理については十分御留意していただければと思います。

御質問の件についてですが、夏の時期に空調設備が設置されていない特別教室で授業を行う際には、スポットクーラーや扇風機などを御活用頂いているところですが、空調設備の設置につきましては、児童生徒の健康面だけでなく、学校学習環境の向上の観点、先ほど議員さんおっしゃいました学力向上の観点からも効果があるものと認識しております。各特別教室への空調設備の設置につきましては、多額の費用や相当の期間を要します。学校施設の設備に関しましては、校舎改築などにも多くの課題があり、その解決に向けて今後、国の補助金など有利な財源の活用のほか、効率的に実施できる手法を研究し、事業化を目指し取り組んでまいります。

・トイレを洋式にしてほしい

(藤山教育部長)

市内小中学校のトイレにつきましては、御指摘頂きました衛生面や節水の観点に加えて、多くの世帯で洋式トイレが一般的であることを踏まえ、毎年度一定規模の予算を確保した上で、従来の和式便器を洋式便器に改修し、洋式化率の引上げに努めてまいりました。しかしながら、令和 7 年 3 月 31 日現在、日常的に児童生徒が使用するトイレにおける和式便器及び洋式便器の総数 768 基に対して、洋式便器数は 283 基で、洋式化率は 36.8%にとどまり、県内他市との比較においても低い水準となっております。こうした中、先般の市議会 6 月定例会におきまして、市長の施政方針として、小中学校トイレの洋式化について、今後おおむね 5 年を目標として 100%、充足することができるよう取組を加速させることを表明したところです。本事業は、設計や工事に相当の期間を要するものもありますが、児童生徒の皆さんが快適な環境の中、学校生活を過ごすことができるよう、早期実現に向け取り組んでおります。

《再質問》(水野議員)

市総合計画の教育部門には子どもが安心して勉強できるように、古くなった施設の修理をする必要があると記載されておりました。加えて山陽小野田市学校施設整備計画には、公共施設の劣化の調査結果が示されており、劣化状況を表した評価の 4 段階中最も低い、『早急な対応が必要』とされている D 評価を受けている箇所もありました。私たち中学生や地域の方が利用する公共施設を快適にするために、地域全体の公共施設の整備が重要だと考えます。例えば最初の議案に上げさせていただいたような、開けにくい窓や壊れたガラスなど、施設に関する問題が一部で見受けられます。これらは実際に生徒に大きな支障をきたしているわけではありませんが、長期的に見ると、教育環境の充実に影響を与える可能性があると考えます。山陽小野田市教育振興計画では、学習環境の充実が目指されており、市総合教育計画や学校整備計画にも、施設の維持、修繕が含まれています。私たちが使う施設の安全性と快適性が向上すれば、よりよい学びの場が提供されると思います。

そこで、本校を含め、市内の小中学校等教育施設への対応方法、今後の整備について

計画等がありましたら教えてください。

《市の回答》（藤山教育部長）

教育委員会も総合計画に基づいて、以前から学校施設の整備は行っています。この3年間だけでいいますと、例えば令和5年度で言えば、高千帆小学校の屋内運動場、体育館、外壁の改修工事と、6年度は本山小学校の屋内運動場外壁の改修工事を行っています。また今年度は、今名前が挙がりました、赤崎小学校の管理特別教室棟の工事、校舎の工事を行うこととしています。今の御質問の、対応方法の計画がありましたらということなんですけども、今年度、厚狭小学校の建物が地震などの自然災害にどれぐらい丈夫か、あと強くて安全か、問題があつて修理が必要かを調べる耐力度調査を行うこととしています。この調査結果を踏まえまして、来年度以降その方針を定めて、工事を行う予定としております。教育委員会としましては、施設の大きな改修については、相当の多額の費用がかかるため、山陽小野田市の学校施設整備計画に基づいて、来年度以降、皆さんも多く時間を過ごす校舎等を中心に、安全対策や老朽化対策を優先して進めたい、対応していきたいというふうに考えています。

《再質問》（水野議員）

2020年現在における築30年あるいは50年以上たっているほとんどの学校では、耐震工事を行っており、長寿命化がされています。また、市の試算では、長寿命化をすることで、校舎自体は80年は保つことができるとされています。埴生小中学校は令和2年度に、厚陽小中学校は平成23年度に建て替えや改修工事が行われていますが、赤崎小学校や出合小学校、厚狭中学校など、建て替えや改修工事がまだできていない学校もあります。確かに長寿命化をすることで、校舎は補強されます。しかし、窓やドアのような内部は老朽化してしまいます。学習環境にも影響を与えかねないことから、建て替えを含めた整備計画を作成してみたいかどうでしょうか。

《市の回答》（藤山教育部長）

整備計画は作成しておりまして、ホームページにアップしておりますが、ただ市は、先ほどとも重なりますけども、校舎の建て替え以外にも取り組まなければならない課題っていうのが多くありまして、限られた予算の中で、建てたい時期を明言することは現時点ではできません。しかしながら本市の学校は、今議員が表でお示しされており、建設から50年以上経過したものが多く、老朽化が進んでいることは事実です。皆さんが安心して学校生活を送ることができるよう、計画にもあつたと思いますが、建物がどの程度良好な状態にあるかを示す指標を踏まえつつ、市の財政的な面も考慮しながら、具体的な建て替えや改修等を実施する計画について、関係部署とこれから協議を進めてまいりたいというふうに考えております。

## 【議長感想】

小野田中学校 石田 日南 議長

議長を任せていただき、ありがとうございました。この経験が山陽小野田市をよりよくしたいという気持ちにつながりました。本当にありがとうございました。

高千帆中学校 戸川 彪生 議長

今回の中学生市議会を通して、ふだん何げなく暮らしている地域の課題や、市議会の仕組みについて深く学ぶことができました。また、将来、地域や社会のために何ができるかを考えるきっかけになりました。この経験を生かして今後も学校や地域で自分の意見をしっかり持ち、積極的に関わっていきたいと思いました。



## 日程2 講評

山陽小野田市長 藤田 剛二 様

皆様お疲れさまでございました。まずは御参加頂きました 14 名の中学生徒さん本当に感謝申し上げます。また今日皆さんこのスマイルの缶バッジをつけていただいて一体感があっとうれしかったです。まず、12 名の議員さんには本当に落ちついてしっかりと質問をしていただきまして、我々もすごく分かりやすかったと思っております。そして 2 名の議長を務められた方は本当にスムーズな議事進行されて、すごくいい中学生市議会だったなと思っております。

また、中学生市議会を主催していただいております山陽小野田市のふるさとづくり協議会は、大本会長初め本当に多くの皆様方の御臨席を賜っておりまして、平素から感謝申し上げますとともに、今回は平成 29 年度からスタートして 6 回目というふうになっておりますけども、本当に中学生の皆様方に貴重な機会を与えていただきまして、感謝申し上げます。

今日、それぞれに貴重な御提案とか意見とか気付きを頂きました。今日は代表して、12 名の方に発表していただきましたが、今日に至るまでは、各学校の中で、クラスなのか学校全体なのか分かりませんが、皆さんが一人一人本当に本市のことを真剣に考えていただいて、それをまとめて、そして代表として 12 名の皆さん方が一般質問という形で、皆さんを代表して意見をくださいました。本当にありがたく思っています。共通した御提案もありましたトイレとか空調に関する学校の教育環境の整備の問題であるとか、バスを中心とした公共機関の問題であるとか、子育て支援とか、いずれも今、山陽小野田市として大変重要視をしている課題でございまして、本当の議員さんからも常にそういった御質問を頂いて、我々もしっかり市民の皆様方のそういった御期待にこたえるべく、行政を推進しているということでもありますけども、今日改めて、中学生の皆様方の視点から、こういったことが大切だからもっと改善してほしいという、生の声を聞いたのは大変うれしく思いますし、今日皆さんに頂いたことは全て、課題としては十分認識をしておりますので、スピードアップして課題解決を進めてまいりたいと思っております。

そしてこの 6 回の中学生市議会、過去 5 回になりますけれども、それぞれ頂いた貴重な意見を、なるべく市でいろんな取組に反映するような仕組みを既に作っております。その結果として今までに 8 件、8 つの事業が実施をされております。そして 1 件は、行政ではないんですけど他機関がそれを実施されております。そして 4 件が検討中ということで、また新たに皆さん方が本当にすばらしい意見を出してもらえばなしということでは決してなくて、それをまたきっかけにして我々もそのいろんな仕組みの中で実施をしていくという結果につながっておりますことも、皆様方の中では御理解頂いて、また今日のこういうことがあったということをお家に持ち帰っていただいて、多くの皆様方にお伝えを頂けたらありがたく思います。

そして今市としてどういうことをやってるかっていうのも、一つ一つの施策は言うのは控えますけども、ベースとしての考え方が、協創によるまちづくりということを進めています。協創の『協』は協力の協で、新しくつくるという意味合いです。これは行政だけで、市のまちづくりを本来ならすべきかもしれませんが、なかなか人物金という、ある意味経営資源的なものに対する、制約がどうしてもあります。ですからもしやるに

しても行政だけがやるとなると、時間がかかってしまう。その間、今日もいろんな御要望頂きましたけど、皆様方に我慢していただくことも多々出てきます。それはそれで行政としてベストを尽くすんですけども、それに合わせて、今日お集まりの中学生の皆さんもそうですし、ふるさとづくりの関係の皆様方も地域の皆様方と一緒に課題を解決していくような、それぞれが役割を少しずつ果たしていく中で、地域課題、学校の課題を解決しましょうという趣旨が、この協創によるまちづくり、皆さんで力を合わせて、課題解決したいという思いがございまして、そういう取組をずっと進めております。ですからこれからも皆様方も、これはただ市のほうにいろんな提案をして、これは市がやってくればよいよねっていう考え方ではなくて、いうこともすごく大切ですけども、中学生の立場の中で今できることがあれば、今やろうとか、今できなくても、これから高校生、また 20 歳を過ぎ成人になって社会人になったときに、今の思いをしっかりと、記憶に残して、自分たちができることをやろうとか、もし、市外とか県外に出られても、その中でも山陽小野田市と関係することは幾らでもできますし、何かのきっかけで 1 回出た人がまた山陽小野田市で活躍しようということも十分ありますので、そういった気持ちを一つにして、山陽小野田市の発展のために、皆様方が活躍してもらおうと大変うれしいなと。

やはり今日のような中学生市議会で、今までに経験したことのないようなことをすると、そういった一つ一つの経験値というのが、皆様方の本当に貴重な成長につながっていきます。その成長された皆様方が大きくなられて、ほんとに本市のために、立派な仕事をされること、それは山陽小野田市の発展につながっていくわけがございまして、ここにいらっしゃる若い人たちというのは、山陽小野田市の未来をつくっていく私たちにとっても大きな希望であります。今日これだけ本市のことを考えていただいたことはもう既に本当に大きな誇りになっておりますが、それがさらに希望になるように、皆様方に山陽小野田市の未来を託したいという思いがございまして、しっかりと勉強もしていただいて、またすばらしい仲間がたくさんいると思いますので、皆さんと今の充実した中学校の生活をして大きく成長して、またいろんな立場の中で、山陽小野田市の発展にもお力添え頂いたらありがたいなという思いでいっぱいでございます。今日は本当にありがとうございました。



## 山陽小野田市議会議長 高松 秀樹 様

中学生の皆様お疲れさまでした。そして司会をされた石田さん、戸川さん、お疲れさまでした。今日皆さん一般質問をされたんですが、議会は議事機関と言われてます。中学生でもあったかどうか分かりませんが議事機関というのは、いわゆる議論をして話し合いをして物事を決めていくという機関、これが市議会、議会ということでございます。我々一般質問を年4回、3月6月9月12月定例会に行っています。我々の仕組みでは、議員1人30分の持ち時間があります。執行部サイドの答弁時間は無制限ということで、一般的に約60分で1人の議員が一般質問をして、1日大体4名しております。これが我々市議会の一般質問の状況です。今日皆さんがやったのとちょっと違うんですが内容は一緒でした。

今日議長の石田さん、戸川さん、上に上がりましたよね。どんな感じでした？緊張したでしょ？緊張するんですけど、見たら分かるとおりに、議長席より執行部席は下なんです。市長も議長より下に座っています。一般議員も議長よりは下に座っています。しかしこの議員席と執行部席を見ると、どっちが高いです？議員席が高いですよ。今地方議会はいわゆるこういう構図になっております。しかしながら、一番高い席にいらっしゃるのは誰ですか？後ろですよ。傍聴席は市民の皆さんがおられます。つまり、我々も市民の代表、市長も独任制で市民の代表、皆さんの投票で選ばれるということで、市民の皆さんが一番上にいます。しかし最近、新築した議会は同じフロアに傍聴席があるんです。その意味合いは、市議会執行部と市民の距離を縮めたいという思いでそういう傍聴席をつくっているところもあります。

本日の中学生市議会の目的の一つは皆さん御存じのように、中学生ならではの意見を市政に取り入れるということだったと思います。皆さんの質問を聞いて、いわゆる中学生視点の質問だったなというふうに思います。執行部、市のほうも、我々の市議会の本会議さながらの答弁を行っていただいたというふうに思います。多少長かった答弁ありましたよね。あれ我々のときも長いんです。だから特別じゃなくていつも長いと、つまり、特別扱いはほぼなかったというふうに思います。

また、学校によっては2校において資料提示を行われました。実は我々市議会も、資料提示をカメラでモニターに映していったらどうかということをやっております。やはり資料提示をされると、非常に分かりやすい部分もあります。国会中継みたいですけど、そういう形で資料中継をしていただいて、我々も今後検討材料になるのかなと思います。

一般質問の評価、講評ということで評価なんですが一般質問は、いわゆるいろんな評価ポイントがあります。大きく四つあるんですが、まず一つ目が、聞きやすさっていうのがあります。声の大きさ、スピード、発音など分かりやすい話し方だったかということで、これは皆さんこのとおりに、非常に聞きやすくて分かりやすい話し方だったと思います。

次に、明確性ということで、質問の趣旨論点は、明確で分かりやすいかと、これも非常に分かりやすかったと思っております。

説得力のある質問の組立て方をしていただけたのかと。特に最後の特別教室とかで、竜王中はなかなか聞いていて説得力もあるなというふうに思って、これは執行部は特別教室にエアコンをつけざるを得んのかなとか思いながら聞いておりました。

最後に、質問の目的を達成できていたか、つまり皆さんは、質問を考えたときに、こ

うあるべきだということで質問を考えられたと思います。目的を達成できたのかどうか、達成できた学校はいいと思います。つまり達成できなかった納得できなかったっていうときは、ぜひ学校の先生にもお伝えしたいんですが、再質問に再質問を重ねて、皆さんが納得できるような回答を得るっていうのも、一つ勉強だったのかなというふうに思います。全体的に中学生市議会は定着しております。皆さんのおかげで非常に質も上がってきて、私が中学生のときと大分やっばり違うなあという気がして、非常にうれしく思います。

またこのような中学生市議会を企画運営していただいた山陽小野田市ふるさとづくり協議会の皆様には感謝を申し上げます。ありがとうございました。今日はお疲れさまでした。



## 山陽小野田市教育委員会教育長 長友 義彦 様

中学生の皆さんお疲れさまでした。今ほっとしていることだと思います。

ただ最近の学びというのは、授業が終わった後、いかに振り返るかっていうことを大事にしているかだと思います。皆さん、どのように振り返りますか。ちょっと難しい言葉で言えば、今やってきたことを『メタ認知』する、そういった活動になろうかと思いません。内容については今市長さん、議長さん言われたとおりだと思います。学び方っていうところから考えてみたらどうかなというふうに思います。

少し離れますけども、皆さん『子どもの権利条約』というものを御存じですか？調べられましたか？こういうのがあるんですね。これは 1989 年に国連で採択されて日本では 1994 年に批准されています。その第 12 条には、子どもの意見表明の権利を規定していて、自分の意見をまとめることのできる子供が、その子供に影響を与える事柄について、『自分に関係する事柄について、自由に自らの意見を表明できること、そして正当に尊重されること』ということが規定されております。このことを踏まえて 2023 年に『子ども基本法』が施行され、法律にも規定されているところです。まさに今回の中学生市議会というのは、皆さんの意見を大人に聞いてもらう機会であり、皆さんは自由に意見を言うことができたというふうに思います。

議会というのは、民主主義を体現する仕組みです。民主主義とは物事をみんなで話し合っていくましようという仕組みですので、自分の意見をしっかりと言うことがまず

もって重要になります。今日は皆さんの思いをしっかりと、この執行部の方々に伝えることができたでしょうか。自分の思いを相手に伝えるということは、適切に言葉を使うことが必要となります。こうしたことを学ぶ場というのが、実は国語の授業なんですね。そのほかにも、グラフがありました。グラフを書く、グラフを読み取る、そうした学習もいろいろ関係しています。ですから、皆さんが学校で国語や数学を学ぶという意義というのはここにあるわけですね。こういったときに使える力をつける、それが教科の授業の時間です。

それから次に、皆さんの意見は尊重されます。現に執行部の皆さんが、とても時間をかけて回答を考えられています。後ろにいるうちの教育部長も、今日の昼ぐらいまで、何回も原稿を見直して回答を考えていました。ただ、ここで理解してほしいことは、尊重されることと、皆さんが言った意見が実現されるということは別です。では現実的だからといって意見を表明することは無駄だったのでしょうか。私は決して無駄ではないと思っています。なぜなら意見を言うことはきっかけです。意見を言うためには、より多くの情報を収集すること、調べたことを整理分析すること、他の者の意見を聞く、最後に意見としてまとめ表現する、こうしたプロセスを踏んだことと思います。これはまさに探求の学びのサイクルと言われているものです。ですから皆さんは、こうした機会を使って、いろいろ頭を使って、いろいろな試行を重ねて、人と協力しながら、この意見をつくることができた、これは大きな財産ですし、大きな学びです。

これから皆さんにお願いしたいことは、さらに意見を掘り下げて考えてみたらどうかなというふうに思います。トヨタとかでよく言われているのは、3回なぜを送り返してください。それでいいのか、なぜそうなのか、なぜそう考えたのか。その意見答えに関して、なぜそれでいいのか、そうしたことを繰り返して考えてください。そうすることで、表面的ではない本質的な問いにたどり着いてほしいというふうに考えています。今回の意見についてもいろいろありましたけど、どうすれば実現するのか、つまり課題が解決するのか、そうしたことにつきまして自分は何ができるか、仲間と何ができるのかについて、発展的な議論をしてほしいなというふうに思います。

最後に皆さんは、このような思考様式、意見を表明するためのいろんなサイクルですね、思考様式をぜひ身につけてほしいというふうに思っています。このことはOECDのラーニングコンパスの中でも、エージェンシーの育成ということで示されておりますので、ぜひ学校や学級でも、身近なことについて意見をいろいろ出して、みんなで知恵を絞ってください。教育委員会としましては、皆様の学びがもっと充実するように支援してまいりたいというふうに思っております。

結びに、最後になりますが、こうした機会を提供していただきました関係者の皆様方に感謝を申し上げます。



### 日程3 主催者お礼

#### 山陽小野田市ふるさとづくり協議会 会長 大本 章男

本日は、山陽小野田市のほうから、藤田市長、古川副市長、それと長友教育長さん、市議会のほうでは、高松議長さん、中村副議長さん、来賓としてお越しくださいます。どうもありがとうございました。先ほど3人の方から講評を頂きまして、私の今思った感じなんですけれども、昨年よりは3人とも長い時間講評を頂いたような気がします。それは私の考えでは、この中学生市議会というのを、だんだんだんだん重要視頂いているんじゃないかと思って喜んでおります。どうもありがとうございました。

また、部長さん方々、答弁は非常に丁寧に頂きましてありがとうございます。通常の市議会よりは、中学生市議会の答弁が難しいんだということで、随分公務の途中で時間をつくって頂いたということも耳に入っておりますので、大変ありがとうございました。お礼申し上げます。また、中学校の校長先生、いろいろと改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

中学生の議員さん、先ほど市長さん、議長さん、教育長さんからお話がありましたように、とにかくこれからこの体験をこの経験を、これで終わらさないで、学校に帰って、またあなたたちが成人されるまでじっくりこの現在の気持ちを持ってもらって、大きくなれましたら、山陽小野田市の力になるようにと思って期待しておりますのでどうぞよろしく願います。今日は御苦労さんでございました。また、観客の方々どうもありがとうございました。皆さん本当にありがとうございます。よろしく願いいたします。

